

2019年度 韓国社会福祉学会春季学術大会報告 I

2019年度韓国社会福祉学会春季学術大会に参加して

村田 文世
日本社会事業大学

2019年4月26日～27日、ソウル神学大学校で開催された韓国社会福祉学会春季学術大会に参加し、「社会福祉法人の Third Party Government 化に伴うアカウンタビリティの拡大と“公益的取組み”の法制化」と題した口述発表を行って参りました。

韓国の社会福祉に関しては、日本と類似した“社会福祉法人”制度をはじめ、社会的企業に代表される日本に先駆けた新しいサービス組織の台頭など、国を挙げた民間組織の育成に長らく興味を持っておりました。そうしたなか、市場化における社会福祉法人の役割拡大や社会福祉法人制度改革に関する発表の場を頂き、日本の社会福祉の最新動向を紹介する意味からも、まさに念願叶った機会となりました。

発表準備においては、事前の提出資料から発表用パワーポイント資料等の翻訳サービス、当日の通訳の先生の手配まで、日本社会福祉学会及び韓国社会福祉学会から、丁寧かつ正確なバックアップを得ることができ、お蔭で発表内容の精査に余裕を持って専念できました。

また発表当日は、各発表者に一人ずつ担当コメンテーターが就き、より専門的な観点からコメントを頂いたり、コーディネーターからの総括、フロアーの参加者との質疑応答を通して、有意義な意見交換をすることができました。論点となった、「官から民」の流れが既定路線化するなかで、政府によるヒト・モノ・カネを通じた支援のあり方や、民間組織における規模や活動面の格差の出現など、市場化の過程で公・民関係や民・民関係に生じる課題は、世界規模の普遍的テーマであることを実感しました。あらためて、日本の社会福祉の現状を俯瞰的に捉えることができ、国際学術交流の醍醐味を味わった有意義な機会となりました。参加を通して得られた示唆や先生方との出会いを、今後の研究活動に活かして参る所存です。

最後になりましたが、この度の学会参加に際してご助力を賜りました、日本社会福祉学会、韓国社会福祉学会の諸先生方、事務局の皆さまに、心より感謝の意を申し上げます。

2019 年度 韓国社会福祉学会春季学術大会報告 II

韓国社会福祉学会のホスピタリティに包まれて

滝口 真
西九州大学

この度、韓国社会福祉学会春季学術大会からの招聘を受けて 2019 年 4 月 26 日（金）～27 日（土）に韓国ソウル神学大学校において自由研究発表の機会に恵まれました。事前に日本社会福祉学会の選考を頂き感謝いたします。発表テーマは「日韓高齢障害者施設におけるソーシャルワークに関する考察 ～ 福祉レクリエーション援助の視点より ～」であり、小生が学部時代より実践している臨床動作法における集団療法の一つを具現化し、脳性まひ児への対処法を高齢障害者等に援用を試み、職員の意識を明らかにしたものです。通訳は西九州大学大学院博士後期課程趙廷仁院生が行い、日本高齢者福祉職員 410 人、韓国高齢者福祉職員 384 人、両国有効回答合計 794 人のデータを分析の対象としました。質問項目の内容的妥当性の検証については、SOONGSIL CYBER 大学校高齢福祉学科 CHOMOUN-GI 学科長のスーパービジョンを受けており、大会会場での再会に感謝しました。

さて、この度の調査では、日本における介護現場の専門職として介護福祉士の国家資格者が 174 人（42.4%）と最も多くを占めていましたが、韓国では、日本のような介護福祉士養成制度が無く、半数以上が日本における介護職員初任者研修を経て実務に当たっていることが特徴でした。また、大学制度についても日本における短期大学に位置する制度が無く、大学と専門学校に二分している点も高等教育制度の違いを知ることとなり、具体的なコメントを頂いた KANGNAM 大学校社会福祉学科 JUN HOSUNG 教授のご指導に心からの感謝を申し上げます。今後の研究の方向性が示され感謝いたしました。

研究発表後は、韓国社会福祉学会 CHUNG MOOSUNG 会長（SOONGSIL 大学校総長）による昼食会へのご招待を賜り、更なる学際的な交流を通じた友好の機会が与えられました。今大会では、学会での受付、会場案内、学会発表に対する誠実な学術面での問い、食事会のご配慮を含め、韓国社会福祉学会ご関係者皆様のホスピタリティに包まれた機会に改めて感謝いたします。隣国での招聘を拝受して、わが国の「おもてなし」文化を再考しながら、福祉サービス利用者へのソーシャルワークのあり方を問い直す機会が与えられ感謝でした。

なお、本研究においては、科学研究費補助金（17K04290；研究代表者・岡本宣雄）、私立大学研究ブランディング事業・西九州大学「認知症予防推進プログラム SAPS」並びに日本福祉文化学会「研究プロジェクト助成」を受けての研究成果の一部であることを付記します。